

氏 名：河本秋子

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 175 号

学位授与年月日：2019 年 9 月 17 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論 文 審 査 委 員：主査 吉田 千文（聖路加国際大学教授）

副査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）

副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学准教授）

副査 渡井 いずみ（浜松医科大学教授）

論 文 題 目：未就学児育児中の看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトおよび
その対処行動とアウトカムの関連

博士論文審査結果

本論文は、未就学児育児中の看護師のワーク・ファミリー・コンフリクト(以下、WFC)とその対処行動およびアウトカム(仕事満足感、家庭満足感、仕事と家庭の両立満足感、身体的健康度、精神的健康度、就業継続意思)の関連を検討し、「未就学児育児中の看護師の仕事と家庭の両立モデル」を構築することを目的としている。

文献検討と予備研究から導き出された仮設モデルは、「個人の要因」、「仕事と家庭の要因」、「WFC と WFC への対処行動」、「アウトカム」から構成された。最終アウトカムは「就業継続」である。仮設モデルに基づいて、日本看護協会「看護師のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ事業」参加病院の未就学児育児中の女性看護師への質問紙調査が行われた。60 病院 347 人の回答が分析された。ロジスティック回帰分析および重回帰分析を用いた結果、最終的に「WIFIT WIF への対処行動」「FIW への対処行動」が「仕事満足感」と「家庭満足感」に大きく影響し、「仕事満足感」と「家庭満足感」が「就業継続意思」に大きく影響するモデルが構築された。

審査では以下の点について指摘があった。

1. 重回帰分析での変数選択の過程について、選択基準を示して論理的に記述すること。
2. モデルの適合度を示す値を具体的に記述すること。
3. 公衆衛生看護学産業保健の視点からの考察を加えること。
4. 就業継続意思を最終アウトカムとし、現施設での就業継続のみを就業継続意思ありとした理由について加筆すること。
5. 研究方法の対象の選定基準とその理由、調査依頼方法、分析方法について丁寧に正確に記載すること。

6. 結果について、すべての調査項目の記述統計結果を示し、合計数の誤りなどを修正すること。
7. 予備研究は追加分析を統合して再構成し、博士論文への示唆としてまとめること。
8. 要旨の「目的」の項には研究の背景を含めて記述し、「結果」には、仕事家庭の両立モデルに関する記述を追加すること。

これらの指摘事項について修正されたことが確認された。本論文は否定的な視点からのワーク・ライフ・バランス研究が多い中で、ポジティブな視点を示すもので、産業保健領域に新たな理論的、実践的視点をもたらす研究と評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。